



第70号 2022年4月15日

富山県合唱連盟

事務局

北日本新聞社事業局内

〒930-8680 富山市安住町2番14号

TEL (076) 445-3355

FAX (076) 431-1924

発行人 中井隆司

心から合唱を楽しむことができる日まで もう少しの努力を続けよう!

富山県合唱連盟理事長 中井隆司

第6波の感染者数が減少傾向にあるとして、3月下旬には全地域での蔓延防止等重点措置が解除されました。富山県も、4月1日よりコロナ警戒度をステージ1(小長期)へ引き下げました。3月初旬に600人超の最多感染者数を記録したものの、それ以降はオミクロン株の性状とワクチン効果で、①療養者の98%以上が無症状か軽症②重症病床稼働率が低水準で推移、というのが理由です。県内の累計感染者数はもうすぐ3万人を超え、これは県民35人に1人が感染した計算になります。観光地は春の賑わいを見せ、大型連休の国内旅行の予約も急回復しています。外出や移動、会食の制限も全て解除され、社会経済活動の本格的な再開に大きく舵を切りました。しかし、専門家も明確な未来を見通せてはいません。各自治体も手探り状態で、何が正解かは分かっていません。一人一人が気を付けて生活していくしかないのです。具体的には、ワクチン接種+基本的な感染防止対策(マスク着用・手指消毒・0密体調不良時は外出や出勤しない)を継続していくことでしょうか。1日も早い治療薬の開発・承認・使用を期待しましょう。ワクチンには重症化防止は期待できるものの、感染防止にはさほど効果がみられません。新たな変異株はこれからも出現するでしょう。ウイルスが消え去る望みは当面ありません。残念ながら、ポストコロナはまだ早いです。少なくとも、合唱や音楽活動を安心して楽しむことができる日までは、まだ慎重な行動が求められます。でももう少しの我慢。合唱や音楽を愛する人には、きっとできる我慢です。

富山県合唱連盟の活動を振り返ってみます。一昨年度(2020年)は全ての事業を中止または延期を余儀なくされました。総会等は書面表決で行いました。昨年度(2021年)は、総会・合唱講習会・合唱の祭典、県コンクール、そして1年延期した連盟創立70周年記念式典を開催しました。コンクール中部支部大会は録音審査、おかあさんコ

ラス全国大会はオンライン開催(中止の代替企画)、恒例の第九演奏会は中止、合唱講習会はオンライン開催(YouTube配信+DVD配付)、室内合唱コンサートは中止。3月の福島県でのアンサンブルコンテスト全国大会は直前に発生した地震により中止になりました。その他、いくつもの加盟団体が感染防止対策を講じて演奏会を開催しました。コロナの状況が落ち着いていた年度前半は、多くの事業や演奏会が実施できましたが、後半はかなり厳しい状況が続きました。

そんな中でも、合唱をはじめ吹奏楽、オーケストラ、舞踊・民謡・演劇等の音楽・芸術活動が新聞やTVで紹介されているのを見ると、確実にコロナを乗り越えつつあることを実感します。

年度当初は、「コロナ禍はこれまでの自分たちの取り組みを見直す機会。恐れ過ぎずに前へ進む。できないと思うよりできる方法を見つけていこう」という気持ちでスタートを切りました。各事業の開催に向け十分な感染防止対策を講じた実施計画の策定、将来を見通し健全な連盟活動を維持していくための会計の見直し、年間の理事会開催予定日時の決定等、できることから取り組みました。加盟団体の皆様の活動状況についても、時々アンケートをお願いしました。皆様と連盟とがスムーズに意見交換できることはとても大切です。県連の主催事業、各団体の活動や演奏会情報等が見やすいHPの作成にも力を入れていきます。

2022年度は31団体と4名の個人会員の皆様とでスタートします。世の中の動きと比べると、合唱や音楽の世界はまだまだ厳しい状況が続いています。しかし、心から合唱を楽しむことができます。日までは、あともう少しです。「コロナを乗り越えた新しい日常」を目指し、心一つにして県連主催事業を進めていきましょう。北日本新聞社の皆様並びに事業に関わる全ての皆様、引き続き力強いご支援をよろしくお願い申し上げます。

「コロナ禍での活動情報」



富山アカデミー女声合唱団

コロナ感染者数を見ながら練習をしてきましたが、連休、年末年始等、人の流れが多くなると感染者も増加します。今年に入ってからは全く練習ができていません。「歌いたいけれど、歌えない」のが現状で、目に見えないコロナウイルスとの戦いに疲弊しています。

うがい、手洗い、マスク、ワクチン注射で感染対策をすることでコロナが終息し、一日でも早く皆元気に合唱できる日が来ることを願っています。

福野あすなろ合唱団

”感染対策”に「合唱活動」が悪の根源とされ、活動を制限されて以来、おかささんコーラス中部大会は2年続けて中止。さらに、富山アラートのレベルが上がると瞬間に「練習会場難民」に。昨年の8月、どうにか活動再開へこぎつけましたが、仕事や家庭の都合で参加できない団員が増え、練習場の使用制限が解かれても、団員数はじり貧状態。

今は、オミクロン株対策で練習を見合わせていますが、「合唱の祭典」に向けての練習を始めたいと検討中です。

合唱団ミル・ステラ

感染者の増減を見ながら、活動の休止・再開を繰り返す一年だった。そのため、着実な練習の積み重ねとはほど遠く、予定していた音楽会に参加できなかったこともあった。そうした中、11月14日婦中ふれあい館においてサロンコンサートを開催した。コロナの谷間のよ

うなこの日に、マスクなしで歌声を披露できたことは、不完全燃焼のような日常を吹き払い、団員に明日への希望を与えてくれた。また、多くの方々の協力があつて実現できたことと、感謝している。

合唱団「楽音樹」

2020年3月の第10回記念定期演奏会は、コロナ禍拡大を勘案して富山県初の「無観客開催」といたしました。YouTubeにより配信することができました。

団員に現役の社会人、特に医療業務や教育関係者が多いこともあり、対外演奏や練習について機会損失がやむを得ない現状ですが、作曲家の山下祐加先生に委嘱して完成した合唱組曲『勇氣の系譜』の披露演奏を目標としています。よろしくお願い申し上げます。

女声アンサンブル舞歌maika-

初めは違和感があつたマスク合唱も、今となつては慣れたもの。基本的な感染予防策を講じながら活動を続けています。

当合唱団は女声コーラスですが、今年のコンクールは混声で出場します。こんな時期だからこそ、新たな刺激や変革が必要と考えたためです。その一環で、作曲家の森山至貴さんへ新曲も依頼しました。

合唱音楽の魅力はコロナに負けるものではないはず。個々人の事情は

尊重しつつ、少しずつでも新たな挑戦を重ねていきたいものです。

砺波高校合唱部

本校合唱部は、部員が11名と少人数であることから、パート練習時には1教室に1〜4名の配置となります。飛沫には最大限の配慮をしながらも、比較的制限の少ない状況で練習を行っています。毎日の活動では、呼吸の練習と発声練習後、コールユーブンゲンと1、2曲歌うことから始まり、リーダーを中心に音取りをしたり、楽曲の理解が進んできたら発音や発声、音楽表現などについて互いにアドヴァイスをしたりしています。室内合唱コンサートが中止となり、生徒は落胆した様子でした。練習を重ね、ある程度曲が完成しても発表の場がなくなってしまう、といった状況が繰り返されていますが、「曲を理解し表現すること」について日々模索することで、楽譜を読み取ること、自分の歌声に対するイメージやハーモニーへの意識が少しずつ変化しているようです。

南砺福野高校合唱部

本校合唱部は、現在2年生2人、3年生4人の計6人で活動しています。木曜と授業のない土日を休みにし、練習中は常にマスクを着用して行っています。

NHKのコンクールでの上位入賞を大きな年間目標に掲げて、今後も地域の音楽祭やイベントへの参加も行いながら、少人数ならではの美しいハーモニーを作り出すべく日々練習していきます。

ます。初心者がほとんどで練習に行き詰まることもあります。部員全員で励んでいきます。

富山大学合唱団

2年目となるコロナ禍での活動でしたが、この1年間も何とか終えることができました。今年度は2年ぶりに演奏会を開催することができ、団員一同達成感でいっぱいです。開催日が迫る中、警戒レベルが上がりがりぎりまでどうなるか分からない状況が続いていましたが、検討を重ね十分な感染対策を行った上で無事演奏会を開催することができました。イレギュラーも多く様々なことがありましたが、この経験を糧に来年年度も粘り強く活動していきたいと感じました。

編集後記

コロナ禍の中、季節は巡り3回目の春を迎えました。合唱連盟加盟団体は、オンライン交流等感染対策を実施しながら、歌い継いでいます。一方、昨今のメディア報道から「光と影」の交錯する世界情勢をみるにつけ心が痛みます。一日も早い安穩を願わずにはいられません。

さて、富山から「第九」の合唱の灯が消えてから3年目になります。永い歴史を紡いできた「第九」は、富山県民にとって未来につながる素晴らしい財産です。今年こそ、富山の空に歓喜の音が響きわたることを祈りたいものです。新年度も連盟の情報発信に努めて参ります。どうぞご協力の程お願いいたします。

広報部部长 牧野 洋子
副部长 本多以都子
副部长 廣井 健一